

はじめに

本調査研究は、財団法人第一住宅建設協会と、財団法人地域社会研究所の研究助成を受けた、『集合住宅地における「景観」による配置設計手法』の調査研究である。この研究は、もともと今後の集合住宅地計画において「景観というものが、配置計画や設計手法の一つの拠り所になるのではないか」という考えのもとに始められた有志研究者の活動に端を発している。

最近、各自治体における景観行政の推進は著しいものであり、景観条例や景観賞の設定、さらには景観行政を「まちづくり」への足がかりとしたり、町の活性化手法とすることも行われ始めている。このような時に当たり、従来の集合住宅団地を振り返ってみると、その配置計画は都市工学的であり、経済性、合理性が軸となり、景観はもっぱら設計者の感性に委ねられていたが、それでも多くの優れた団地景観を生み出してきた。それらの配置計画にあたって、当然、住みごこちの一部である「眺め」や、外から見た団地の「風景」への配慮も、あって然るべきであった。しかし、配置計画自体に景観要素を取り入れたり、美しい景観を持つ住宅団地づくりは、あまり考慮されてきたとはいいがなかった。

現代の都市環境は、技術の向上や機能性、利便性を第一に追求してきたのであり、かつて都市景観とは技術水準の高さを示す、高速道路や超高速の「眺め」を呼んできたこともある。そして今、ようやく反省の時期に至り、自然や都市の環境の見直し、徐々に進みつつある。即ち、自然の美しさと並んで、都市の中に自然を取り込んで美しい景観を生み出し、また、古い建物を「修景」

「保存」して町並みづくりに取り組んだり、人工景観に「修景」の手を加えることなどによって、歴史性と共に美しい都市や、環境を再評価する手法が使われるようになった。

こうして生活に密着する場にも、「風景」の向上を考えるための景観計画が求められるようになって考えられる。それは感性のみに頼る「風景」づくりだけでなく、学問の体系として技術的にも裏づけされる景観計画へと、移行されるものでなくてはならず、そのためにも今後の研究が必要であり、本研究はまさにその序の一つと考えたい。

これは、さらに具体的な提案へと歩を進める前提であり、さまざまな表現の手法を生み出すことによって美しい「風景」や「眺め」を創り出し、集合住宅団地づくりにおける景観計画の発展に貢献したいと考える。